

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	株式会社 ケア・ハート グループホームあかしあ ゆったり館	評価実施年月日	平成21年8月15日
評価実施構成員氏名	生出 互野 能登 星川 田中 安喰 小川		
記録者氏名	生出	記録年月日	平成21年8月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	あかしあ独自の理念があり地域の方々に支えられながら暮らしている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	あかしあの基本理念にあるようにゆったりと笑顔でその人らしく生活出来るよう職員全員で取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	毎月のお便りや運営推進会議などでご家族や地域の方々に理解していただけるよう取り組んでいる。	ホームでの行事などへの地域の方やご家族の参加をお願いしホームの事を理解していただけるようにしている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の方がホームに遊びに来てくださるときもあり、散歩や買い物などでお会いした際には、気軽に挨拶を交わしている。	運営推進会議のお誘いやホームでの行事参加の声かけをし普段から交流がもてるようにしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームも町内会の一員として各町内会の行事になるべく参加するようにはしているが何分にも入居者が高齢なこともあり参加出来るものが限られてきている。町内会の方々に理解していただきながら参加している。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	直接話し合うことはないが、以前ホームでの運営推進会議に地域包括の方による各種詐欺に関する講演会を実施した際、町内会でも同様の講演会を実施したとの事で、会議をきき町内の高齢者の方々の暮らしにも役立てたことがあった。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>カンファレンスの際に外部評価についての勉強会をしたり、外部評価をきにケアについての改善点やホーム内の改善点などを考え日々のケアの向上に努めている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議での外部評価の結果報告や、ご家族のお便りに郵送し結果を知らせている。又、会議では日々の取り組みやご家族からの意見交換をし理解いただいたり意見を参考にケアの改善をはかっている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>札幌市の開催する会議には必ず参加し市からの意見などをきいている。豊平区内では担当の職員の方と相談しながら利用者やご家族が安心して生活出来る様話し合っている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在のところ制度が必要な利用者がいないので話し合う機会はあまりないが、必要であれば検討していく。</p>	<p>市の出前講座などを利用しスタッフの勉強会を実施したい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>ホーム内ではスタッフ全員がしっかりと理解しており利用者をケアしている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ご家族が不安なくしっかり納得出来るよう十分話しあっている。疑問点や不安なことがないか納得いくまで説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が常にご自分の意見や不満を言える環境作りをスタッフ全員でしており、現に色々な不満も聞かれる。職員全員で話し合い解決に努めている。又外部にも苦情申し立てできるようポストも設置している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月ご家族にお便りを出しておりその中に個人の詳しい内容などを記載している。又、必要であれば電話連絡をいれている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族面会の際などに不満や困ったことがないかお聞きしている。ホーム内にも苦情をうけつけるポストを設置している。外部に苦情を申し立てることができるよう関係機関の説明もしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員が意見しやすい環境であり普段職員が思っていることを管理者が会議にもっていき話合っている。その結果を運営者に届け改善できるところは改善している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	出来るだけ要望に対応できるよう調整に努めている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動、離職が少なく馴染みの関係ができています。新しい職員が入る際にも自然に馴染めるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族やご本人とよく話し合い今本当に必要な支援は何かを考えている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人のホームでの様子や、他者との関係をみながら徐々に馴染めるよう職員間で話し合いながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	普段の生活の様子や、会話の中から本人の得意なことを見つけ出し一緒に生活出来る様支援している。又、普段の会話の中から知らなかった昔の話を聞き学ぶこともあり、お互いに支えあう関係にある。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会は少ないが面会に来られた際には本人の近況や思いを伝えている。又、ご家族の希望や意見をお聞きし一緒に支えていけるよう努力している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居の際や面会の際などにご家族や本人の昔のお話を聞く機会があるが両者の関係に踏み込めない部分もある。ホームでは両者の関係がうまくいくよう努力はしている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族と相談しながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	本人の性格や病状を理解し共用部分での過ごし方に配慮している。席の調整や話題の配慮で孤立することがないように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホームを出て行かれる際にはご家族にいつでも連絡、相談して下さるよう声かけしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ個人の希望にそえる様努力している。食事の時間、好み、過ごし方など。他者との兼ね合いを考慮しながら、職員間で常に検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からの情報に加え、普段本人と会話する中で色々な情報を把握している。		普段の生活の中で本人と色々な話をするよう努力している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人について気づいたことなどを常に職員間で話し合い全員で把握出来る様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月のカンファレンスで話し合い検討しており、本人の思い、家族の意見、かかりつけ医の話なども検討にいれ作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直しを職員全員でしており、本人に変化がおきた場合についてもその都度話し合い、調整し新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランと合わせケース記録に解りやすく記録しており、職員間では毎日意見交換し、日々の様子を共有しており、見直し時に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	まだ要望はないがホーム側は柔軟な対応をこころがけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会の民生委員の訪問や近隣ボランティアの訪問、SOSネットワークによる警察の協力と避難訓練や救命救急の講習実施での消防の協力などお願いしながら支援している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスを利用するまでのことはしていないが他施設の開催する催し物に参加したりはしている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の参加や講習会を開くなどというかたちで協力してくれている。又、在宅独居生活の方の支援を協働している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医が月に2度往診にきてくださり、利用者となじみの関係ができています。利用者の体調については医師のほうからご家族に説明して下さる場合もあり安心できる体制にある。事業所側でも良い関係にある。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に詳しい医師がおり職員も病状その他について相談し易い関係にある。常に診断、治療を受けられる体制にある。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所に看護職員がおり週に1度訪問。利用者とも馴染みの関係にあり、日常の健康管理をしている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院した際にはこまめに先方医療機関と情報交換しており早期に退院できるよう調整している。退院後も引き続き連携をとっている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>本人がお元気うちからご家族と相談することは難しいが、様態に変化があった場合にはご家族、かかりつけ医と何度も相談し方針を考えている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>常に職員間で検討し利用者が出来るだけ自分らしく過ごせるよう取り組んでおり、かかりつけ医と一緒に支援に取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>自宅からグループホームに入居される際にはご家族、ケアマネージャーなどよく話し合いなるべくスムーズに本人が馴染めるよう努めている。ホームから他へ移動される際も相手先の担当者やご家族とよく話し合い検討している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者一人一人に合わせた言葉かけや対応をこころがけており、個人の記録に関してもプライバシーを守っている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者それぞれにあわせた対応と働きかけをしており、ご自分で意見を言える環境作りをしている。</p>		<p>利用者本人が自ら決定し生活出来る様な環境作りを職員全員で取り組んでいる。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の希望やペースに合わせて生活出来る様支援している。</p>		<p>職員全員で業務を優先するのではなく利用者中心で生活出来る様支援している。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご自分の好みのおしゃれをしており、理容・美容もご本人の希望にそっている。</p>		<p>いつも通っている美容院に行かれる方も家族の協力を得ながら支援している。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の嗜好に合わせ食事メニューを変更したりしている。出来る方、得意な事を見つけその方に合った食事準備、片付けをお願いしている。</p>		<p>パンが好みの方にはそのように、肉が苦手な方には魚と利用者が満足できるよう工夫している。利用者1人ひとりの力を見極め食事作りをしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者の希望するもの、好みに合わせ生活を楽しめるよう支援している。		タバコを吸う方に関しては喫煙所を指定し火災に注意しながらも本人が満足できるよう支援している。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	温度版を使用し個人の排泄パターンを把握し本人にとって気持ちよく生活できるよう支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望に出来るだけ合わせ支援しているが入浴が苦手な利用者もあり心から楽しめるように支援できない日もある。		利用者が清潔になおかつ楽しんで入浴できるよう職員で努力している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の生活パターンに合わせて支援している。夜間も安眠できるよう支援している。		夜間眠れず起きてこられる利用者にはホットミルクをお出しし会話しながら安心して眠れるよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本人との会話やホームでの生活の中から楽しみやき晴らしを見つけ出し職員間で話し合いながら支援している。		散歩や買い物、喫茶店、ゲームなど利用者の楽しみに合わせ支援している。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望や力に合わせてご家族とも相談しながら援助している。		買い物や外食など本人が楽しめるよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近隣に広い公園があり散歩に出かけることが多い。又散歩中の方と挨拶を交わしたりすることもある。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食、花見、水族館と外出する機会を作っておりご家族にもお話している。		利用者が高齢ということもありご家族との外出は少ないように思うが、外食、お墓参りなどちょっとした外出をご家族にお願いしていきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話は希望に応じて自由に使用できるようにしている。又、手紙を書きたいが書けない方には毎月出している家族便りに内容を代筆している。		暑中お見舞い、年賀状などをご家族に書いて送る機会を作っていきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽にホームに来られるような環境づくりをしている。ホームにいらしたときはゆっくりと過ごせるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	普段から職員間で話し合いながら取り組んでおり、身体拘束はしないという考えが徹底している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	見守りを徹底し鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>67 利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>利用者の状態に応じプライバシーに配慮しながら支援している。</p>		
<p>68 注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>保管場所や保管の仕方に注意している。</p>		
<p>69 事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>個人の今の身体状況などを職員間で話し合い常に事故防止に努めている。火災訓練は夜勤帯、日勤帯とその時の状態を考慮しながら訓練している。</p>		
<p>70 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>年に1度だが救命救急講習を実施し応急手当、初期対応の訓練をしている。かかりつけ医の協力を得ながら過去の病気についての勉強会を開催している。</p>		
<p>71 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年に1度町内会の方を含めた避難訓練を開催しており、災害時には声をかけあえる関係ができています。</p>		
<p>72 リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居の際にホームで生活する上でのリスクについて説明しご家族には理解をいただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>布巾、まな板などの調理器具の衛生に気をつけ、食品の賞味期限や保管の方法等を考慮し食中毒予防に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>ホーム1階玄関前には花のプランターや野菜のプランターがあり利用者を初め近隣の方々が楽しめるよう工夫している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>強い光が入らないようレースのカーテンをしたり利用者の写真を飾ったりボランティアさんが描いてくれた絵手紙などでほのぼのとした空間作りをしている。又、季節の花をテーブルに飾ったりしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下のベンチに座って壁の写真を見ながらお話したり、居間のあちらこちらに椅子があるので、利用者は自由に座って過ごしている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居の際にご本人の使い慣れたものを持ち込み使用されている。その後もご家族と相談しながらより生活しやすいよう工夫している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>掃除の際や普段でも換気に気をつけ窓を開けている。利用者に合わせて温度調整をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すり、スロープなどを設置し安全に自立して生活出来るよう支援している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者個人に合わせ職員全員でケアしている。場所に関してはそれぞれの部屋に目印や表札をつけたり、トイレの場所がわかるように工夫している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>窓際には鉢植えの花があり水やりや花を楽しんでいる。ホーム玄関前には花や野菜のプランターがあり水やり収穫と楽しんでいる。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

あかしあの基本理念にもあるように利用者が自分らしくゆったりと笑顔で生活出来るよう職員一同支援しています。職員と利用者も家族のような馴染みの関係が出来ておりその時々のお互いのお互いに隠さず話せる場だと思っています。毎日を支え合って生活出来るホームだと思っています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	株式会社 ケア・ハート グループホーム あかしあ のんびり館	評価実施年月日	平成21年8月13日
評価実施構成員氏名	小林 、 金子 、 中村 、 金子 、 岩崎 、 猪子 、 岩間		
記録者氏名	小林 隆弘	記録年月日	平成21年8月13日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	『ゆったり 笑顔で その人らしく』を基本理念とし、ケア理念として「不安や孤独感をとりぞき、普通で当たり前の生活を提供します。」「本人の自発性を促し、ペースに合わせたケアを行ないます。」「本人がどのようにして生きてきたのかを知り、認知症をよく理解したケアを行います。」の三つを掲げています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の申し送りや定期的なカンファレンスの実施、また日々のケアの中で話し合いを持ち、理念を元に個々に合ったケアを考え実施している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議の開催や行事等への参加のお誘いにより、家族や地域住民の方々にホームの様子や普段の活動を知ってもらえるよう機会を持っている。 家族の方には随時、お便りや電話で伝えたり、ケアプランも理念に沿った内容で取り組み、その都度説明をしている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩中には、近所の方にしっかりと挨拶を交わしている。 行事等ある時には、地域住民の方々にも参加を促している。来て頂いた時には、その活動等に一緒に参加、協力もして頂いている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運動会等の町内会の行事に声をかけて頂いており、参加させて頂いている。 参加の頻度は多くない。	今後公園清掃や町内街路樹の手入れを行う等、地域へ貢献して行きたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	救命救急講習や悪徳商法等に騙されないための講演等消防や地域包括支援センターの方を招いて行っているが、ホーム内やその家族、一部の地域住民の参加だけにとどまっている。 具体的に地域の高齢者等の暮らしについての話し合いや取り組みは行っていない。	当事業所の活動の中でお役に立てる事があるならば、地域住民の暮らしにも目を向けて取り組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの意見、不満、苦情をしんしに受け止め、本人、家族、職員でその都話し合いを持ち対応している。外部者へは、運営推進会議を通して、地域包括支援センターの方や地域住民の方々にも利用者や家族、施設運営に関する事等表せる機会になっている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族へは、月に一度、施設便りとして施設の活動内容や利用者の様子等、写真を添付し知らせている。その他、利用者の様子の変化に応じて電話連絡をしたり、来訪時にも話をしている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置の他、電話、来訪時に意見、不満、苦情を受けている。その意見等をしんしに受け止め、運営に反映出来るよう努めている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員の意見や提案は、運営者や管理者がその都度聞き反映している。運営者や管理者は、日頃から意見が交換しやすいような雰囲気、関係づくりに努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応、必要な時間帯に職員の確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。現状、家族の中には、夜間職員が一名で勤務している事に不安を感じている人もいる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者や管理者は、職員も働きやすい環境作りを心がけている。離職する場合には、利用者が不安にならないような説明、対応を心がけている。新たな職員が入った場合には、周りの職員が協力し、時間をかけ関係作りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>段階に応じ、内外の研修の機会を設けている。講義、研修費、資格取得の経費を事業所が負担しあっている。</p>	<p>職員一人ひとりの知識、技術、意識の向上のために、法人内外の勉強会や研修の機会を増やしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者は、市、区それぞれの管理者会議に参加し、意見交換やネットワーク作り、勉強会を通じてサービスの向上に努めている。職員も研修を通して同業者と交流する機会を持ち、同じようにサービスの向上に努めている。同じ建物の中に他の事業所もあり、自然と交流や意見、情報交換がある。当会社も3つの事業所を運営しており、その間での交流もある。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>事務職員を配置し、事務関係や病院等の送迎、食材の買出し等を代行している。定期的に会食の機会を設けている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>就業規則により、各種休暇、各種手当、昇給、賞与、懲戒等を定めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の思いを一番大事にしたいと思っており、本人自身からよく聴くようにしている。うまく伝えられない時には、家族からの意見も聴き、思いを汲み取れるように努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談時から、受け身な態度で出来るだけ家族の思いを聴けるよう努めている。上手く話しが出来ない時には、分かり易くこちらから質問させてもらい思いを汲み取れるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の健康面やADL、生活の様子等からどのようなサービスが今必要かを判断し、他のサービスを含め支援している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	サービスの利用前に家族等と相談し見学や訪問等重ねることもあるが、なかなか本当に納得して入居される方は少ないと思われる。入居後に安心し、馴染めて生活が出来るように時間をかけ関係を作っているのが現状。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食事作りから居室の掃除、散歩や編み物等の趣味活動、おやつを食べながらおしゃべり等生活全般において共に行い、楽しみ、支え合っている。職員が学ぶ事や助けられる事も多い。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の不安や苦悩等の気持ちに共感し、負担をかけずに一緒になって支援していけるよう努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	認知症への理解、本人の日常の様子や気持ちを手紙や電話、来訪時に上手く伝え、よい関係が築けるよう努めている。事業所内の行事にも参加して頂き一緒に楽しんで頂けるよう配慮している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	センター方式を利用し、馴染みの人や場所を把握し関係が保てるよう努めている。元々本人が遠方に住んでいたり、相手の都合も合ったりという理由で難しい方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	対人関係がうまく行かず、孤立しがちな利用者には、個々に合わせて職員が間に入り、関わりを手助けする等している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後に継続的な関わりを必要とする利用者や家族があれば、つきあいを大切にしていきたいと思っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の様子や会話から一人一人の思い、希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、もし本人だったらと考え、職員間で話し合いを持ち対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し、ご家族にも協力を得て分る範囲で把握している。また本人の会話や様子から情報を得たり、知人や友人の来訪時に様子をうかがったりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	業務日誌や介護記録等の書式を整理し、状態をわかりやすく確認しやすく工夫している。日々の申し送りや連絡ノートを使いスタッフ間で情報を共有できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を元に、カンファレンスにて職員間で意見を交わし介護計画を作成し、その後、本人と家族に確認を取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は、期間を定めそれに依って評価、見直しを行っている。状況の変化に応じて、その都度本人、家族、職員で話し合いを持ち、新たな計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録や連絡ノートを活用し、申し送りにて情報を共有している。その都度、職員間で意見交換しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院、訪問看護、歯科等の協力関係機関もあり健康管理の面では柔軟な支援が出来る。ターミナルとなると医師や看護師が在中しておらず、また職員の知識、技術にも不安があり現状難しいと思われる。地域には、近くに店や公園もあり、また、交通機関も整っているため活用できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	頻度は多くはないが、民生委員や地域包括支援センターの職員、地域住民の方々に行事や会議等に参加して頂いている。警察、消防機関の協力もあり、救命救急講座や避難訓練の実施等を行っている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	グループホーム内で他の介護サービスを受ける機会は少ないと思われる。他のケアマネージャーとの交流は持っている。意向や必要性があれば支援して行きたいと思っている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に出席して頂き、家族、地域、事業所への説明や助言、講座等をお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族等の希望を優先し、そのかかりつけ医と協力し適切な医療を受けられるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	症状や状況に応じて、専門医に診てもらい治療や指導を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護職員を配置し、週に一回のペースで体調、健康管理を行っている。食事や行事にも共に参加して頂いており、利用者、職員共に気心が知れていて気軽に相談もでき、日常の健康管理や医療活用の支援がスムーズにできている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	長期入院により、環境の変化による不安、認知症の進行やADLの低下等のリスクを考え、できるだけ早期に退院できるように病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現在終末期に関して、常時医療行為が必要になった場合を考えると、職員の知識、技術、経験の不足や、医療機関との連携を考えると、最後を当事業所であるというのは難しい。その場合、終末期は病院でとなる。現在、ほとんどの利用者、家族と具体的な方針は話し合い出来ていない。		本人や家族の様々な意向に応えられるようしていきたい。本人や家族から意向が聞ければ話し合いを持ち方針を立てる事も出来るが、本人が元気に生活している状態でその話題は取り上げにくいものだが、大切である事も分っているため今後取組んでいかなければいけないと思っている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現状では、重度化、終末期に関し、常時医療行為が必要になった場合は、当事業所での対応は難しく退居という形を取っている。そうでなければ、最期まで看取る事を考えている。現在、かかりつけ医のいる病院では、二週に一度の往診のみで、その他に医師にかかる場合は、病院の人員に余裕がない等の理由もあり、受診しなければいけない状況。		今後、本人や家族の意向に副えるよう、かかりつけ医、病院等の関係機関の見直し等検討している。終末期に向けた支援のために、職員に対して勉強会の実施等を考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>転居の際には、本人及び家族に関わるケア関係者とも十分な話し合いや情報交換を行い、環境の変化によるダメージを軽減できるよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる事のないような言葉かけや対応に努めているが、会話の中で何気ない一言で傷つけてしまっている事もあるのではと思う。</p>		<p>共同生活では、普段の会話や行動は、誰かに見られていたり、聞かれている事が少なからずある事を認識し、職員が何気ないと思う事でも、本人にとっては人には知られたくない事だったりもあるという事を念頭に置き、言葉かけや対応に注意していきたい。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の思いや希望を表出できるような、言葉かけや対応に努めている。本人の意向にそぐわない事もあるが、説明し納得して出来るよう努め、無理な強要はしないようにしている。</p>		
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>事業所での一日の流れはあるが、一人ひとりのペースや意向を最優先し、柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者の好みの服を選んで着てもらっている。 訪問美容も来てくれるが行きつけの美容室がある方はその美容室でお願いし、またない方でも出来るだけお店の方に足を運び、カット等を行っている。</p>		
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備から片づけまで利用者と協力して行っている。一人ひとりの力に合わせお手伝いをお願いしているが皆協力的。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒や飲物、おやつ等は、医師の指導を元に健康管理ができる上で、本人の希望に応えている。 喫煙に関しては、医師の指導、火の管理、非喫煙者への配慮等、安全に出来る状態で許可している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを記録し、把握し、声かけや誘導を行っている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日出来る状態にしている。ただ、時間は、職員の勤務形態の理由で午前10時から午後4時くらいまでとなっている。本人の希望やタイミングに合わせて入浴を促している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者ペースで休息、就寝支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や力を活かし、役割を持ったり、楽しみを感じられるような活動を日々、職員意見を持ち寄り行っている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失や盗難の恐れを考え、基本家族や事業所で金銭の管理を行っている。金銭の管理ができる利用者には、お小遣い程度の金銭を自分で管理してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望や職員が誘い、散歩や買物に出掛けたり、喫茶店でお茶をしに行ったり。町内会行事に参加する等の気分転換を図っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	普段、遠くて歩いて行けない所や動物園等行く機会が少ないような場所にも計画を立て、定期的に行けるように機会を作り支援している。家族とも自由に外出や外泊が出来るよう支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望時にはいつでも電話をしたり、手紙のやり取りができるよう必要な支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は定めておらず、いつでも気軽に来訪して頂けるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 職員の中には、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しているか不安という人もいる。		勉強会等の機会を設け、全ての職員が正しく理解できるよう取り組んで行きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全ての職員が理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。無断外出がある利用者に対しては、普段から注意し、さり気なく声をかけたり、一緒に出掛けたりと制止することなく、その理由を話し合い等で追及、把握し対応できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮し、利用者の所在や様子を把握し、職員間で連絡を密に取り、安全に配慮している。		職員間の所在も把握できるよう声を掛け合い、より安全に配慮している。それでも、無断外出等の危険や事実もあり、より注意して行ってきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に合わせて物品の管理をしている。また、以前管理、使用できていた事ができなくなる等、事故につながらないように日頃から本人の様子、状態の変化に注意をはらっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日頃から危険と感じた事等を個別にヒヤリハットの用紙に記録し、カンファレンス等で話し合い、対応や環境整備等の対策を立てている。事故が起きた時にはその都度、事故の検証、対策を話し合い、事故報告書を作成しその後のケアに活かしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成し、いつでも確認できるよう事務所や業務ファイルに挟んでいる。定期的に消防に協力を得て応急手当等の訓練を実施している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施している。館内の別事業所とも合同で訓練を行っているが、地域の人々の協力を得られるような働きかけはしていない。		マニュアルの見直し。避難後の対応等、地域の協力も含め考える必要がある。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	考えられるリスクについては、職員、家族共に話し合い、対応に努めている。抑圧感のない暮らしを大切にという事を念頭に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>顔色や言動、食欲等普段の様子の変化に注意し、バイタル測定、管理者への報告を徹底している。その都度職員間で情報を共有し、対応に結びつけている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>いつでも確認できるように、業務ファイルに一人ひとり、薬の内容や作用、副作用等の資料を挟んでいる。薬の変更等がある場合には、連絡ノートや診察記録で全ての職員が確認できるよう努めている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、一人ひとりに合わせ活動内容や食事、水分量、トイレ誘導の時間等を考え定期的に排便があるよう働きかけに取り組んでいる。定期的な排便がない時には、医師の指示を受け下剤を使用する等の対応をとっている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。義歯を使用している方は、毎晩薬品につけ洗浄、消毒している。二週に1回訪問歯科にて口腔状態を診てもらっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食欲不振や拒否等がある場合は、食事の内容や時間をずらす等対応の工夫にて、一日に必要な栄養、水分量等を確保できるよう努めている。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>職員、利用者の手洗いやうがい、毎朝のトイレ掃除、手すり等の消毒、タオルのこまめな交換等色々な予防対策をしている。その他、マニュアルを作成し、予防、対応の取り決めをもうけている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	まな板や布巾類の消毒。食材の冷凍保存、在庫チェック等まめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	夏季は、玄関前に花壇を作ったり、プランターで野菜を栽培する等し、親しみやすい環境作りを行っている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	建物の構造やリスク回避の為の環境作り等で限度はあるものの、季節の花や写真を飾ったり等の工夫をしている。職員は、不快な音を出さないよう努力している。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共同空間が狭いが、廊下にベンチを置いたり、事務所を活用したり、気の合った利用者同士で居間や居室で談話をして過ごせるよう支援している。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居前に家族に対して、使い慣れた家具や物、アルバム等を持ってきて頂けるよう説明している。普段使用する食器や湯飲み等も持参して頂いている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	換気をこまめに行うよう努めている。冬季は乾燥しやすいため加湿器やタオルを濡らし干す等の工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>夏季の間、玄関前に花壇やプランターで野菜を栽培する等、毎日水やりや鑑賞、収穫等を楽しめるようにしている。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 過去に管理者や職員が何度も変わっており、これから改めて事業所として力を入れたいことやアピールできる点を作り上げていきたいと思っているところです。全ての利用者が「ゆったり 笑顔で その人らしく」暮らせるよう努めたいと思っています。現在、アピールできる点は、事業所内の職員の雰囲気が明るく、利用者と共に笑顔がたえない所です。